

市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に係る説明会の実施結果について

1 目的

市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組について、今後、学校の統廃合を含めた方策を検討する学校・地域において、市の適正規模・適正配置についての基本的な考え方、各学校の現状、学校・地域ごとの方策の方向性（案）等について、保護者や地域の方々に周知を図るもの

2 実施結果概要

日程	学校・地区	時間	会場	参加者数
10月10日(月・祝)	小鮎小	《全会場共通》 [1回目] 10時～ 11時30分 [2回目] 14時～ 15時30分 [3回目] 17時～ 18時30分	小鮎小 体育館	32人
〃 16日(日)	飯山小		飯山小 体育館	49人
〃 23日(日)	森の里小		森の里小 体育館	84人
〃 29日(土)	荻野小		荻野小 体育館	58人
11月 3日(木・祝)	鳶尾小		鳶尾小 体育館	53人
〃 6日(日)	森の里中		森の里中 体育館	34人
〃 19日(土)	愛甲小		愛甲小 体育館	42人
〃 20日(日)	玉川中		玉川中 体育館	11人
〃 23日(水・祝)	上荻野小		上荻野小 体育館	58人
〃 26日(土)	毛利台小		毛利台小 体育館	56人
〃 27日(日)	玉川小		玉川小 体育館	59人
			合計	536人

3 意見等概要

No	意見種別	件数	内容
1	取組の考え方・進め方・スケジュール	133件	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模適正化の検討に当たり、教育的な観点に加えて、地域コミュニティや財政的な内容が記載され、様々な観点から検討するという内容になっており、検討が前進したのかなと感じる ・現状で穏やかに生徒が過ごしている中で、統合によって大きな学校に行くとデメリットが大きいと感じる。もし統合を検討するなら客観的なデータを示してほしい ・児童間でトラブルが起きた際に、1学年1学級だと対応に課題が多いと感じるので、複数学級の方が望ましい
2	教育環境	66件	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校のメリットの「教員の目が行き届きやすく、きめ細かな教育指導を受けやすい」とデメリットの「児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定しやすい」について、どちらを優先するものなのか ・それぞれの地区に学校は必要。やはり子どもたちは地域で育つことが重要であり、そういったアイデンティティを育てるのが教育ではないか。地域ごとの良さにもっと着目してもらいたい ・教育環境は一律にしていくべきではない。小規模校でも教育的なマイナス面を感じず、むしろプラス面を感じている ・小・中学校の一貫教育について、どこまで検討が進んでいるのか
3	通学関係	43件	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年で、重いランドセルを背負って通学距離の上限を歩くのは難しいのではないかと。スクールバスの運行など、児童が安全に学校に通える環境の整備を第一に考えてもらいたい ・望ましい通学距離・時間の上限について、小学生は低学年と高学年にわけて、中学生、小学校低学年、小学校高学年それぞれ毎分何kmで換算するのが妥当なのか、細かく計算してほしい
4	地域づくり・コミュニティ	21件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が高齢化を迎えるに当たり、小・中学校が持つ地域の拠点としての機能がとても大切であるため、子どものためという視点だけではなく、地域をどのようにデザインしていくかという視点でぜひ考えてもらいたい ・地域の防災拠点が必要だと考えるので、学校施設の跡地については危機管理担当課を含めて検討してほしい
5	その他	41件	<ul style="list-style-type: none"> ・市として子育てを推進しているのであれば、他県から若い子育て世帯を呼び込む対策を取るべきである ・現在国が35人での学級編制を進めているが、資料に記載されている推計などは、中学校まで35人学級編制になるという前提で作成しているのか
合計		304件	

※地域別の意見等概要は別紙のとおり

地域別の意見等概要（抜粋）

No	地域(地区※) 学校	意見等内容				
		取組の考え方・進め方・スケジュール	教育環境	通学関係	地域づくり・コミュニティ	その他(市の施策、取組の根拠等)
1	荻野地域 荻野小学校 鳶尾小学校 上荻野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・荻野地区の児童数の減少を考えると統廃合はやむを得ないかと思う。1校に統合となると仮定した場合、既存の校舎を利用するのか ・児童間でトラブルが起きた際に、1学年1学級だと対応に課題が多いと感じるので、複数学級の方が望ましい ・公共施設の更新・維持管理費用が足りない点も課題とあったが、財源があれば、統廃合はやらないのか ・取組の効果として、教職員の負担軽減が挙げられているが、学校規模はあまり関係ないのではないか ・統廃合を実施する場合、既存の在校生の在学中は実施しないといった考えがあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中が変化していく中で、部活の在り方や教職員の働き方なども変わっていくものだと思う。この取組は、従前の状態を前提として取組を進めていく考えになっているが、この前提自体を見直して検討していけばよいのではないか ・統廃合や通学区域の変更等についても考えるべきだとは思いますが、小規模校を残しつつ、各学校で特色を持たせ、行きたい学校を選択できるようにするなど、制度を見直すことで、教育環境を向上していくことができるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生において45分の通学は、今の気候ではとても危険ではないか。熱中症などがとても不安。出来るだけ、徒歩距離の負担を増やさない方向での検討をお願いしたい ・小学校低学年で、重いランドセルを背負って通学距離の上限を歩くのは難しいのではないかと。スクールバスの運行など、児童が安全に学校に通える環境の整備を第一に考えてもらいたい ・適正配置の方策で公共交通機関などのバスの利用を認めると記載あったが、その場合の費用負担はどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の統廃合を実施した場合、既存の学校施設の跡地に老人施設を建てるなどの考え方はあるか ・地域の防災拠点となる場所が必要だと考えるので、学校施設の跡地については危機管理担当課を含めて検討してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和12年度と令和22年度の児童数がほぼ横ばいの見込みになっているが、かなり楽観的な見込みのように感じる。今後、荻野地域の3小学校を1小学校に統合することを考えているかもしれないが、更にその先を見据えて検討していく必要があるのではないか
2	小鮎地域 小鮎小学校 飯山小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小鮎小学校の南棟の建て替えが5年後に迫っているということだが、今回、統廃合という方策も検討するとあるが、これは建て替えの期限が迫っているので、統廃合をどうするか決めなくてはならないということなのか ・統廃合を含めた今後の方向性を検討する前に、飯山小学校が通学区域であっても、希望すれば小鮎小学校や清水小学校に入学できるような制度を第一に検討してほしい ・将来的には統合した方が良いのではないかと思うが、いつ頃するのかを伺いたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮に学校が統合する場合はPTAも統合になると思うが、PTAが一つになれば、保護者1人当たりの負担がかなり減るのではないかと ・地域住民と学校との連携を深められるように公民館も複合化できればよいのではないかと。小鮎地区には小・中合わせて3校あるが、一つの公民館区でまとまっているという特性もあるので、その点をいかして取り組んでもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮に小鮎小学校と飯山小学校が、同じ学校となる場合、徒歩での通学は厳しいと思うが、市としてはスクールバスを運行させることを検討しているのか ・統廃合を検討していく中では、3km以内だけでなく、通学路の高低差、道の広さ、歩道の確保なども考えて、低学年などは、スクールバスの検討、送り迎えをしやすいよう学校に駐車場などを整備するなど、安全面を十分に考慮して小学校の通学環境を整えてほしい 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山地区は市街化調整区域で、家を建てることのできないので、子どもが減ってしまうのは当然のこと。学校統廃合を検討する前に、飯山地区の交通利便性を高めることや、子どもが増える取組を検討すべき ・市で若年世帯への住宅取得補助を実施しており、更に児童の人数が少ない地域に補助額の加算などの対策を実施していると思うが、それらの施策効果は出ているのか ・国が35人での学級編制を進めているが、資料記載の推計は、中学校まで35人学級編制になるという前提か
3	玉川地域 (玉川地区) 玉川小学校 玉川中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組は非常に妥当なものであり、少子化が予想を超えるスピードで進展しているため、早め早めの検討が重要 ・小規模特認校を更に魅力あるものにするため、芸術やスポーツなど、地域ごとに特徴づける必要がある。七沢は市街化調整区域であり、人口を増やすことは難しいが、緑豊かな環境があり、この特色をいかせる制度運用を考えていくべき ・玉川地区の人口から考えた場合、適正な学校規模だと思う。市内でも地域差があるので、一律に考えないでほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境は一律にしていくべきではない。小規模校でも教育的なマイナス面を感じず、むしろ少人数によるプラス面があると感じている。 ・市では、教職員のワーク・ライフ・バランスを守るために、教育委員会ではどのような取組をしているのか ・小規模校だからといって良いことばかりではないと感じている。子どもの成長を見守った経験からすると、1年生の時の印象がそのまま6年間続いてしまう息苦しさを覚えることもあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学負担軽減策の検討に当たっては、距離だけでなく季節などの要因も加味してほしい。真夏の炎天下などは子どもへの負担はとても大きい ・統廃合した場合、通学時間の長時間化が一番気になるが、現状では公共交通機関を使った通学は認められているのか ・統廃合をせずに、このまま現状維持となった場合でも、通学の安全面で心配があるため、スクールバスの運行については検討してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の内容については納得できるところもあるが、過去に七沢に立地していた玉川中学校は昭和54年に一度廃校になっており、現在の玉川中学校は別物である。玉川小学校も廃校になると、もう地域には何も残らない。ぜひ残してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・町村合併により厚木市ができ、用途地域が指定されたが、旧玉川村の地域は市街化調整地域に指定され、以降、森の里を除き、ずっと市街化調整区域である。市がこの地域の人口が増えないような施策をした結果がこのような現状を招いているのである。行政全般と教育行政の関わりがどうなっているのか聞きたい

No	地域(地区※) 学校	内容				
		取組の考え方・進め方・スケジュール	教育環境	通学関係	地域づくり・コミュニティ	その他(市の施策、取組の根拠等)
4	玉川地域 (森の里地区) 森の里小学校 森の里中学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模適正化の検討に当たり、教育的な観点に加えて、地域コミュニティや財政的な内容が記載され、様々な観点から検討するという内容になっており、検討が前進したのかなと感じる アンケート調査等で森の里住民の9割が統廃合に反対した場合はどうするのか 行政としてこの取組を実施するに当たり、どこに重点をおいているのか 森の里地区の学校として小規模特認校は実施できるのか。市全体の教育方針だけでなく、森の里地区、他の地区の特性をいかすべき 現状で穏やかに生徒が過ごしている中で、統合によって大きな学校に行くとデメリットが大きいと感じる。もし統合を検討するなら客観的なデータを示してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模適正化と小中一貫教育をそれぞれ考えるという説明があったが、一緒に考えるべきではないか。 小中学校の一貫教育について検討中とあるが、どういう組織で検討して、どこまで進んでいるのか教えてほしい 小規模校のメリットの「教員の目が行き届きやすく、きめ細かな教育指導を受けやすい」とデメリットの「児童生徒の人間関係や相互の評価などが固定しやすい」について、どちらを優先するものなのか それぞれの地区に学校は必要。子どもたちは地域で育つことが重要であり、そういったアイデンティティを育てるのが教育ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい通学距離・時間の上限について、小学生は低学年と高学年にわけて、中学生、小学校低学年、小学校高学年それぞれ毎分何kmで換算するのが妥当なのか、細かく計算してほしい 望ましい通学距離、時間の上限として、小学生3キロ45分、中学生4キロ60分と書かれているが、厚木市内で実際にこれに近い状況の学校は何校ぐらいあるのか 	<ul style="list-style-type: none"> 地域が高齢化を迎えるに当たり、学校が持つ地域の拠点としての機能が大切であり、子どものためというだけでなく、地域をどうデザインするかという視点で考えてもらいたい 統廃合を実施する場合、地区の高齢化対策などの対策を同時に進めるという考え方はあるか 学校がなくなるとこの地区に引っ越してくる人もいなくなり、地区から出て行く人も増えてしまうのではないのか 住宅地である森の里地区に子どもの声が聞こえないのは非常に寂しい。だから、地区に小中一貫校でいから存続するように取り組んでもらいたい。まちづくりの一環として考えるべきであり、数字だけで統廃合を考えるのは間違っている 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て環境がとても整っている森の里地区の特色を打ち出して、人口増につなげる取組はしないのか 市として子育てを推進しているのであれば、他県から若い子育て世帯の方を呼び込む対策を取るべき 森の里東地区で企業誘致が進むなど、地区で世代交代が進んでおり、今後、若い人が増える可能性もあるため、それらを含め人口推計を考えてもらいたい 地区の高齢化、過疎化を招いたのは市の政策によるものである。交通アクセスの悪さから、住民や、進出してきた大学も出て行ってしまった。 市の新庁舎の建設に多額の費用を掛けている。その予算があるなら教育にもっと掛けるべき
5	南毛利地域 (南毛利地区) 毛利台小学校	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校の課題は分かったが、大規模校の児童・生徒数を平準化するため、通学区域を見直すという考え方はあるか 今後、少子高齢化が更に進んでいくことが想定されるため、予測していたより人口が減少してしまう場合、現在進めている計画を変更したり、見直したりすることは考えているか 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの成長にとって、部活動は重要な役割を果たしているが、子どもの人数が減少する中で、部活動の在り方をどう考えているのか 小規模な学校の課題として、教職員1人当たりの学校行事の負担が大きくなるというが、統廃合という方策ではなく、入学式や運動会などの大規模な行事は近くの学校と合同で行うなどの取組を進め、小規模な学校のデメリットを小さくして、学校を維持していく方法はないか 中学校でも特徴的な教育を行っている学校があるので、子どもに様々な選択肢を持たせる意味で、中学校にも小規模特認校制度を実施してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の都合はあると思うが、スクールバスの導入は検討してほしい 中学生の自転車通学は認めてもよいかもしい 通学負担軽減策の方策で、通学路の整備はなかったが、検討しないのか。子どもが歩くには交通量が多かったり、道が狭かったりする通学路は不安になる 	-	<ul style="list-style-type: none"> 中学校選択制についてこの説明会で初めて知った。進学先の中学校を検討することができるので、もっと早い段階で制度の周知を図ってほしい
6	南毛利地域 (南毛利南地区) 愛甲小学校	<ul style="list-style-type: none"> 厚木市は、小学校の校数当たりの人口は1万人程度であり、この割合は理想的な数字だと思うので、統廃合を検討するのではなく、現状を維持する方法を考えてほしい 今後の方向性について、統廃合が実施されるのかどうか、先が見通せない状況は不安なので、教育委員会で考えている検討案をいくつか提示してほしい 	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> マンションの建設が進んでいる地域は、児童・生徒数の増加が見込めるので、マンションの建設を誘致するような都市計画を考えたらどうか

※地域内に複数地区がある場合のみ記載